

2020年度事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

1. 概況

2020年度も公益財団法人としての各種公益目的事業活動推進を基本に運営を行ったが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、展覧会や教育活動に少なからず影響を受け、また、年度初めは感染症拡大防止のため4月8日から5月末日までの期間を休館、さらには、実技講座や講演会、ワークショップなども一部中止を余儀なくされた。

こうした状況下、検温、アルコール消毒等の感染症対策を実施しつつ、当館の継続事業である仏教美術調査の成果として特別展『知られざる伊豆の仏教美術』や、当館所蔵品の魅力を紹介する『上原コレクション名品選』を開催した。実技講座は7月以降感染症対策を行いながら再開したほか、リモート・レッスンなどの新たな試みも導入、また、開催できなかったワークショップの代替として、ホームページで新企画『おうちでぬりえを楽しもう』を実施した。

今年度も引き続き主任学芸員が下田市をはじめとする文化財保護審議会委員や河津町史編纂委員会副委員長を務め、地域文化の保護に努めたほか、静岡県博物館協会事業推進グループの委員に参加し、県内の文化向上への貢献を図った。

2. 上原美術館の運営管理（定款第5条第1号）

－ 2020年度美術館入館者及び収入実績

入館料は、仏教館・近代館共通で、大人1,000円、学生500円、高校生以下を無料としている。

公益財団法人 上原美術館				
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計	開館日数
8,529名	651万円	47万円	698万円	277日(*1)

(*1)新型コロナウイルス拡大防止策により54日間臨時休館

〔入館者内訳〕

* 大人	8,062名
* 学生（大学、専門）	99名
* 高校生以下	368名

3. 美術品の展示及び公開（定款第5条第2号）

(1) 企画展

<p>【仏教館・近代館共通】上原コレクション名品選 3 一新収蔵の二天と上原美術館のみほとけ／美しき大地</p>	
開催期間	<p>6月1日(月)～9月27日(日) [119日間] 出展作品数 62点 入館者数 2,721名</p> <p>*展覧会の開催は4月25日からの予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月31日まで臨時休館とした。</p>
内 容	<p>仏教館は新収蔵となった平安時代の《二天像》を中心に、収蔵品の仏像をすべて公開した。また近代館も新収蔵となる梅原龍三郎《朝暉》を中心に、描き出す大地の魅力を紹介した。</p>
<p>【仏教館】特別展 知られざる伊豆の仏教美術 【近代館】企画展 四季の情景－上原コレクションを楽しむ</p>	
開催期間	<p>10月6日(火)～2021年1月11日(月・祝) [94日間] 出展作品数 57点 入館者数 3,603名</p>
内 容	<p>仏教館は伊豆半島の仏教美術調査成果から、人知れず伝えられてきた仏像や仏具、仏画を紹介する特別展を開催。近代館は新収蔵の鏑木清方《十一月の雨》を中心に、上原コレクションの日本画から四季の情景を紹介した。</p>
<p>【仏教館・近代館共通】上原コレクション名品選 4 一胡蝶舞う浄土／絵画が紡ぐ物語</p>	
開催期間	<p>2021年1月23日(土)～4月18日(日) [86日間] 出展作品数 66点 入館者数 2,134名(令和3年3月31日迄)</p>
内 容	<p>仏教館は新収蔵した古写経《法華経卷五（平基親願経）》を中心に、コレクションから仏像、古写経を展示した。近代館は上原コレクションの代表作の一つであるクロード・モネ《雪中の家とコルサース山》など、絵画の背景に秘められたエピソードを紹介する展覧会を行った。</p>

(2) 教室生徒の作品展 (※入場無料)

本年度より全教室にて作品展をアトリエにて実施した。

教室名	開催期間[開催日数]
仏像彫刻教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止により、開講回数が少なかったため作品展は中止した
写経教室	3月9日～3月13日[5日間] 出展作品数 25点 入場者数 62名
デッサン・水彩画教室	4月1日～4月5日[5日間] 出展作品数 33点 入場者数 131名
日本画教室	3月24日～3月28日[5日間] 出展作品数 20点 入場者数 115名

(3) 館外出品

国内で開催された2展覧会へ収蔵品の貸出を行った。

展覧会名	「モネとマティスーもうひとつの楽園」展 於：ポーラ美術館
開催期間	4月23日(木)～11月3日(火・祝) [195日間]
貸出作品	クロード・モネ《ジヴェルニー付近のセヌ川》 アンリ・マティス《鏡の前に立つ白いガウンを着た裸婦》
展覧会名	「Connectionsー海を越える憧れ、日本とフランスの150年」展 於：ポーラ美術館
開催期間	11月14日(土)～2021年4月4日(日) [142日間]
貸出作品	安井曾太郎《静物》

4. 美術品の収集、整理及び保管 (定款第5条第3号)

(1) 美術品の収集

本年度は、以下の作品を購入した。

購入作品	
作者名	作品名
平基親	紺紙金字法華経巻五 (平安末期古写経)
不詳	狛犬 (平安後期 木造)
須田国太郎	リヨン (油彩)
小林古径	道成寺 (日本画)
梅原龍三郎	桜島 (水彩)
鏑木清方	春雨 (日本画)

本年度は以下の4作品の寄贈を受けた。

受贈作品	
作者名	作品名
ジョルジュ・スーラ	ウエルギリウス (デッサン)
オディロン・ルドン	聖アントワーヌの誘惑 (リトグラフ)
小倉遊亀	チューリップ (日本画)
エミール・ガレ	花瓶(水差し) (ガラス工芸)

(2) 美術品の整理及び保管

上原美術館では、引き続き温湿度や空気質、電力使用量のデータ収集分析等、館内の環境調査を専門家とともに実施し、美術品保存環境の維持に努めた。また、IPM(総合的病害虫管理)の考え方に基づいた文化財害虫やカビの予防管理も行った。

5. 美術品に関する調査研究及び研修会、講演会等の開催

(定款第5条第4号)

(1) 調査研究

今年度は以下の寺院調査を行った。河津町は本調査で終了となり、三島市は引き続き調査を行う。

- ①河津町・小峰堂調査 (4月6日)
- ②伊東市・龍溪院調査 (6月26日)
- ③熱海市・土沢地藏堂調査 (7月3日)
- ④三島市・長福寺、宝鏡院調査 (12月1日)
- ⑤伊豆市・法泉寺調査 (12月14日)
- ⑥河津町・東大寺調査 (2021年3月6日)
- ⑦三島市・宗閑寺、庚申堂調査 (3月20日)

上記以外に今年度は以下の調査協力を行った。

- ①文化庁調査の立ち合い
河津町・林際寺、南禅寺 (8月6日、12月10日)
- ②横浜市歴史博物館調査の立ち合い
河津町・林際寺 (10月22日、2021年1月14日、3月30日)
- ③浜松市美術館の企画展技術協力
愛知県・普門寺 (2021年3月11日～12日)
湖西市・応賀寺、浜松市・長楽寺 (3月16日)
袋井市・西楽寺 (3月17日)、照明作業協力 (3月24日)

(2) 研修会の開催

本年度も以下の5教室を開催した。

仏像彫刻教室		
講師〔仏像彫刻家〕	受講者	開催日
岩松 拾文氏 大谷 文進氏	26名	毎月1回（年回実施） 第3日曜日
写経教室		
講師〔書家〕	受講者	開催日
山田 修也氏	30名	毎月1回（年9回実施） 第2日曜日
仏教美術講座		
講師	受講者	開催日
当館学芸員（交代）	14名	毎月1回（年回実施） 第2日曜日
デッサン・水彩画教室		
講師〔現代美術作家〕	受講者	開催日
小野 憲一氏	18名	毎月2回（年回実施） 第2・4水曜日
日本画教室		
講師〔日本画家〕	受講者	開催日
牧野 伸英氏	16名	毎月2回（年回実施） 第2・4火曜日

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、写経教室は3回、仏像彫刻教室は5回、日本画教室は6回の休講となり、デッサン・水彩画教室は6回、写経教室は2回の通信添削を行った。また、2021年1月～3月の緊急事態宣言時には、デッサン・水彩画教室と日本画教室はリモート・レッスンとした。

(3) 講演会の開催

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの人が集まるイベントは見合わせた。

(4) レクチャー、ギャラリートーク開催（会場：当館近代館・仏教館）
ギャラリートーク

計 2 回開催 講師 当館学芸員 参加者計 50 名

今年度はギャラリートークのみの開催とし、参加者も定員を設けて感染症拡大防止につとめた。

(5) ワークショップ開催（講師：当館日本画、デッサン水彩画教室講師）

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ワークショップの開催を中止した。代替事業として、夏休みより当館ホームページにて『おうちでぬりえを楽しもう』を公開、収蔵品の塗り絵を提供した。

(6) 外部からの依頼による講演会開催（講師：当館学芸員）

講演名	開催日	聴講者
下田市寿大学での講演	7月15日	40名
みしまのお寺めぐりの会での講演	10月3日	約80名
下田市史講座での講演	11月15日	約40名
伊豆ジオカフェでの講演	12月6日	12名
熱海市での講演	2021年1月24日	27名
河津町仏教会での講演	1月27日	10名
伊豆歴史研究会での講演	2月19日	約40名

(7) 外部からの依頼による研修会開催協力

今年度は独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所の依頼により、当館を会場としたワークショップ開催の協力を行った。

開催概要は以下の通りである。

- ・セミナー名 文化財写真入門
ー文化財の記録としての写真撮影実践講座
- ・開催日時 8月24日 10時～17時
- ・開催場所 上原美術館（アトリエ・会議室）
- ・主催 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
- ・参加者 11名

6. 美術品に関する資料の収集、保管及び公開（定款第5条第5号）

調査研究、公開を目的に美術関係図書や美術関係資料等、また仏教美術、伊豆半島の地誌を主体とした調査研究に関連する書物を収集した。

- ・本年度の収集図書数 936冊（仏教612冊、近代324冊）

7. 美術品に関する解説書等刊行物の作成頒布（定款第5条第6号）

	内容
年間展示予定	2020年度の上原美術館展示案内を作成。 1年間を通して開催する展覧会と当館の紹介を行った。
ポスター等	展示会毎にポスター・チラシの作成頒布。
美術館だより	年4回発行。 (1回約4,000部を無料頒布)
その他	展覧会ごとに出品リストを作成し、来館者へ無料頒布。

8. その他目的を達成するために必要な事業（定款第5条第7号）

地域の教育文化の向上を目的として、今年度も高校生以下は年間を通して無料としたほか、静岡県内全児童を対象とした事業「キッズアートプロジェクトしずおか」に参画し協力を行った。

また、幼児、小中学生、高校生を対象とした出張授業や授業入館、教員の外部研修受け入れも継続して実施した。

その他にも、静岡県博物館協会事業推進グループのほか、市町の文化財保護審議会委員を学芸員がつとめ、地域文化向上に寄与している。

(1) 学校教育との連携

今年度も以下の学校教育との連携をはかった。出張授業は、伊豆地域の小・中学校、高校のほか、昨年度に引き続き富士見中学校(東京)など遠方からの依頼もあった。また学芸員が静岡県立文化芸術大学における学芸員課程履修科目の特別講座も行った。

そのほか、学芸員資格の取得を目指す学生の博物館実習受け入れや、中堅教諭等資質向上研修として地元小中学校教諭の受け入れも行った。

< 学校教育との連携実績 >

- ・ パスポート入館者（キッズアートプロジェクト） 120 名
- ・ 出張授業 6 校（6 回） 合計 433 名
- ・ 授業入館 5 校（5 回） 合計 117 名
- ・ 教員研修 2 名（下田市立朝日小学校、下田市立稲生沢中学校）
- ・ 職場体験 1 名（静岡県立伊東高校城ヶ崎分校）
- ・ 博物館実習 1 名

(2) その他

地域文化への貢献として、田島整主任学芸員が引き続き下田市、伊東市、河津町、南伊豆町、富士市の文化財保護審議会委員として各市町の文化財指定や文化財保護に関わった。また、河津町史編纂委員会の副委員長をつとめ、河津町史編纂事業に携わったほか、浜松市美術館で開催された特別展『みほとけのキセキー遠州・三河の寺宝展一』に特別協力し、搬送や展示に関する助言を行った。

田島整主任学芸員は、これら長年の伊豆地域への地域貢献活動が認められ、伊豆新聞社が主催する伊豆半島での活動を顕彰する伊豆賞を受賞、当館の文化啓蒙活動が広く公に知られることとなった。

また、土森智典主任学芸員は昨年度に引き続き、静岡県博物館協会の事業推進グループに参加し、静岡県内の美術館・博物館等との連携構築、講習会の開催や災害時の加盟館・園の協力体制の構築を行ったほか、3月に全国放送で放映されたBS朝日開局20周年特別記念番組「あなたの街の名画を旅する」の取材を通じ当館所蔵作品の解説を行い、当館の広報活動に大きく貢献した。

以上